

Communication Strategy (コミュニケーション方略) 指導の効果の テキストマイニングによる分析

井 上 真 紀
園 田 暁 子

概要

多くの日本人の英語学習者は英語でコミュニケーションをとることに自信がない。また大学生の多くは一般教養の英語科目として英語コミュニケーションを学んでいるが、授業を履修した後もやはり英語のコミュニケーションには自信が持てないことが多い。大学における英語コミュニケーションの授業は、最低7年以上も続く英語学習の最終段階として非常に重要な位置を占めると考えられる。一般教養の英語の授業は、学生が英語を「使えない道具」として捉えてしまうか、あるいは「いざとなったらなんとか使える道具」として捉えるか、の分かれ道とも言える。

本研究の目的は、英語コミュニケーションの授業で、communication strategy (コミュニケーション方略, 以下CS) を教え、それが有効であることを経験させることによって、英語学習への動機付けと自分の英語力への自信をつけさせることが出来るかどうかを確認することである。通常の授業で毎週顔を合わせるクラスメートとではなく、顔を合わせたことも言葉を交わしたこともない他クラスとの合同授業において英語によるコミュニケーションを行なわせることによって、英語を「相手を知るための手段、または道具」として認識させることができる。年に3回、他のクラスとの

合同授業を行ない、テキストマイニングの基礎的手法によって授業後アンケートを分析することにより、それを授業改善のために活かし、また学習者の心理的变化を客観的に分析することが可能になる。

3回の合同授業を終えたときのアンケート分析結果では、CSを使う経験によって英語学習への動機付けが高まり、英語によるコミュニケーションに以前より自信が持てるようになったという様子が読み取れる。

1. 序論

学生の将来に役立つ英語コミュニケーション能力

文部科学省は平成元年に英語教育における「コミュニケーション能力の育成」という目標をかかげて、平成10年の指導要領では「実践的コミュニケーション能力」の育成に焦点が当てられるようになった。コミュニケーション能力が強調され始めてから20年近く経ったが、大学に入学したばかりの新入生に聞くと、「英語を使える自信がある」と答える生徒は滅多にいない。少なくとも6年、またはそれ以上英語を勉強してきても、「自分は英語を使うことができない」と大半の学生はほぼ決め付けている。大学で英語を教養科目として学ぶのは1年間か2年間であり、それは多くの大学生にとって学校で受ける最後の英語教育である。

大学生に、英語によるコミュニケーション能力をつけさせるには何が有効であろうか。英語を使って友達が増えたら楽しい、英語を使って自分のことを相手に伝えられたら楽しい、「英語はどうせ使えない」と思っていたけれど思いのほか通じた、英語を使ったらもっと広くて豊かな世界を体験できるだろう——と実感できるようなコミュニケーション活動を体験させることによって、英語に対する心理的なバリアを少しでも低くすることができるとは思われる。そして、将来英語を使う必要がある機会に出くわしたときに、英語は「使うべきときに使える道具」または「使ってみたいと思う時に使える道具」であると思えるようなコミュニケーション能力が学生についていれば、それはグローバル社会を生き抜く上で役立つであろう。

Communication Strategy (CS) 指導

英語学習者が英語でコミュニケーションをとろうとする時には、限られた語彙や文法知識を使ってメッセージを伝達しようとするため、さまざまな困難に直面する。うまくいかない部分を何とか補いながらコミュニケーションを続けるための方略を communication strategy (CS) と呼び、外国語教育学辞典 (ジョンソン K・ジョンソン H 編, 1999, p. 80) によると、「十分に習得していない第二言語で意思疎通する時に起きる種々のトラブルに対処する技術」(Stern, 1983) という定義が一般に受け入れられている。CS は、英語教育において 1980 年代から研究がなされ、研究者によって様々な定義や分類がなされてきた。

CS の分類については、Tarone (1977) による 5 つの分類 (回避, 言い換え, 意識的転移, 援助の要請, 身振り) が重要とされているが (小池編, 2003, p. 49-50), これらの CS がどのように実際の英語力向上につながるかは、今後の研究が必要とされる問題点である。

外国語教育において学習者の CS 使用を訓練すべきかについては賛否両論がある (JACET SLA 研究会, 2005, p. 151)。CS 指導に積極的でない研究者は、CS は第二言語に限った方略ではないことやそれによって言語能力が伸びるわけではないことを主張している。CS 指導に前向きな研究者は、CS 指導の有効性を証明する調査結果を報告している。しかしながら、「CS の使用が言語習得を促進するかどうかは議論の分かれるところだが、少なくとも、ストラテジーを利用することによってさらに多くのインプットを得ることにはつながっている (小池, 2004, p. 168)」という見解には多くの英語教育者が共感できると思われる。

1 年に 3 回の他クラスとの合同授業

本研究の目的は、CS 指導を通じていかに学生がコミュニケーションに自信を持つようになり、またその後の英語学習への動機付けを高めるかを調査により確認することにある。そのために、大学 1 年生の総合英語コミュニケーションの授業で CS を教え、他のクラスとの合同授業の機会を 1 年に 3 回設定し、毎回記述式のアンケートを行なった。アンケートには、学



合同授業の様子

生の英語学習に対する心理的要因をより客観的に分析し、授業改善に利用するために、テキストマイニングの基礎的方法を使った。

合同授業では、5分ずつ異なる相手と英語のみでコミュニケーションをとるという方法で、1回の合同授業につき10人～12人と話す機会を作った。始める前に、英語の挨拶（会話の始まりと終わりの）、5つのCS、具体的な話題例とその英語表現を教えた。

テキストマイニングとは何か

テキストマイニングとは、林によると、「テキスト（テキストデータ）を分析し、分析者にとって有益な知識や情報を取り出そうという技術（2002, p. 2）」である。これまで、自由記述文のような大量のテキストは、人間が主観的に理解してまとめるしか分析方法がなかったが、コンピューターの進歩による自然言語処理の技術の進歩に伴い、大量なテキストを客観的に分析することができるようになった。

今日テキストマイニングが注目されているのは、人間の生活の中でテキストマイニングへのニーズが高まってきたという状況がある。林（2002）はその著書の中で、顧客にどんなワインが好まれるかの調査結果をテキストマイニングで分析する方法を説明している。アンケートにより理想のワインについて自由に記述してもらい、統計解析手法を使って、整えられて

いない自由記述のテキストデータから役に立つ情報を取り出すことができるのだ。

コンピューター科学者であり、テキストマイニングに造詣が深い Hearst (1999) は、「テキストデータマイニングとは、集まった文書を吟味し集まったどんな文書の中にも含まれていない情報を発見する方法である。」と説明している。情報検索とテキストデータマイニングとの大きな違いは、情報検索が、興味のある文書を引っ張り出し、興味のないほかの文書を押しやるような手法であるのに対して、テキストデータマイニングは、文書を調べ、どの個々の文書にも含まれていない情報を探す手法であるという点である。研究者はそれまで誰にも知られなかった新しい情報を探すことになるのである。

テキストマイニングの基礎的手法

テキストマイニングが実際に使われるのは、非常に大量のテキストデータを処理する場合であり、キーワードを設定してコンピューターで処理するのが普通である。しかし今回は、延べ 300 人分のテキストデータを、手作業によるテキストマイニングの基礎的手法を使って、学生の心理的な学習要因を客観的に分析することを試みた。カテゴリー分類の作業はコンピューターによるものではなく、実験者がテキストデータを読み取り、手作業で分類した。この分析結果によって、表面的にはなかなか見えてこない、英語学習に対する心理的变化を探ることができる。

本研究では、英語コミュニケーションの授業で CS を教え、それが有効であることを経験させることによって、英語学習への動機付けと自分の英語力への自信をつけさせることができるか、検討を行なった。

2. 合同授業の実施方法

2.1 合同授業日程

第 1 回 2006 年 5 月 6 日 (水曜日)

第 2 回 2006 年 11 月 1 日 (水曜日)

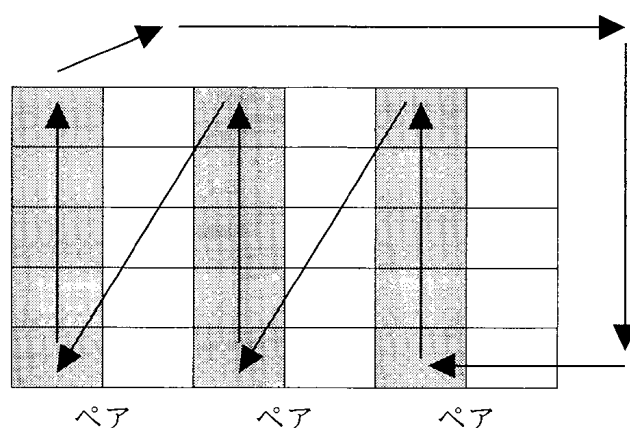
第 3 回 2006 年 12 月 13 日 (水曜日)

2.2 合同授業参加者

中京大学体育学部 1 年生総合コミュニケーションの授業履修者

		井上クラス (人)	園田クラス (人)	合 計 (人)
第 1 回	1 限	23	24	47
	2 限	25	26	51
第 2 回	1 限	27	24	51
	2 限	22	27	49
第 3 回	1 限	22	26	48
	2 限	24	26	50

2.3 ペアの移動の仕方



白色の座席に座った人は固定席であり、灰色の席に座った人は 5 分ごとに矢印に沿って席を移動する。このような移動により、毎回異なった相手と英語で話すことができる。

2.4 指導した CS の種類

- 単語を知らない場合、簡単な言葉を使ってそれを説明してみる。あるいは、その場で辞書で調べて使ってみる。
- 何かを聞かれたら、質問の答えだけではなくさらに情報を付け加え

る。

- c. 相手の答えに対してさらに質問を付け加える。
- d. Fillers（つなぎ言葉、たとえば、Well. や Let me see. など）を使う。
- e. 英語で上手く表現できない時に、身振り・手振り・絵を描くことなどをする。

2.5 その他の指示

- a. 日本語使用禁止。
- b. 気まずい沈黙を作らない努力をする。
- c. 名前の紹介の後“Nice to see you.”と言い、会話の最後に“Nice talking to you.”と言うこと。
- d. コミュニケーションを取るための具体的な話題と関連する疑問文をプリントにして渡し、必要なときは使うように指示する。

2.6 定型自由文の記述アンケートを毎回実施

合同授業についてのアンケートをテキストマイニングで分析する目的は、1) 学生の心理的な学習要因を客観的に分析すること、2) その後の授業改善に役立つ情報を発見すること、にある。定型自由文では、回答者が意図している内容を表現しやすいように、テキストのフォーマットを決めてお



合同授業の様子

くのである。たとえば、「合同授業は _____ だから _____ だと思った」「 _____ という点は改善すべきで、 _____ という改善方法が考えられる」というように、因果関係がはっきりするような形で自由に文を書いてもらう。そうすることによって、「1. 命題が特定できる 2. 肝心な情報を効率よく抽出できる」(林, 2002, p. 111) のである。

3. 結果

3.1 第 1 回合同授業後アンケート結果

第 1 回合同授業後のアンケートは以下の 2 点について答えてもらった。

3.1.1 「合同授業は _____ だから _____ だと思った」

3.1.2 「 _____ という点は改善すべきで、 _____ という改善方法が考えられる」

3.1.1 第 1 回合同授業についての感想 (表 1.1)

定型文：「合同授業は _____ だから _____ だと思った」
(理由) (感想)

(一番左の列は、+：前向きな捉え方、-：否定的な捉え方、0：中立的な捉え方)

	感 想 (数字は人数)	理 由 (数字は人数)
+	楽しかった (82)	知らない人と話せた (42), 新しい友達が出来た (19), 英語でコミュニケーションがとれた (14), 話が盛り上がった (8), 新しい発見ができた (2), いつもより和やかな雰囲気 of 授業 (2), 面白い人ばかりだった (1), ちょっと秘密の話もした (1), 卓球の変化球を教えてもらった (1), 地元の人意外に多くて話が弾んだ (1), 体育科の人と話せた (1), お互いフォローしあえた (1)
+	面白かった (27)	いろいろな人と話せた (6), 英語で話せた (4), 新しい友達が出来た (3), いろいろな話題でも

			りあがった (3), 面白い人ばかりだった (1), 笑顔がずっと続いた (1), 特産物が面白かった (1), 同じ県の友達が出来た (1), 英語でコミュニケーションがとれることがわかった (1), いろいろな個性の人がいた (1)
+	役に立った	(9)	何とか英語で話せた (2), ジェスチャーでも伝わることをわかった (1), コミュニケーションをとるのが楽しい (1), 英語で会話をすることの楽しさがわかった (1), 自分で何とか会話しようと努力が出来た (1)
+	良かった	(2)	いろいろな人と話すことが出来た (2)
+	うまく言えなくても身振り手振りの助けで通じることがわかってよかった	(1)	英語を通じて分かってもらえたことがとても嬉しかった (1)
+	やりやすかった	(1)	プリントに質問が載っていたので良かった (1)
+	気持ちで何とかなるんだなって思った	(1)	
+	話すことの無い人と話すのはいいことだと思った	(1)	
0	緊張した	(2)	新しい人と話すのは緊張する (1), 女の子と話すことがないから緊張した (1)
0	知識のなさに気づいた	(1)	高校時代に覚えたことが使えなかった (1)
-	難しかった	(39)	言いたいことが英語にできなかった (17), 英語で話すのは難しい (6), 英語が話せない (4), 英語表現がわからない (1), 英語が苦手 (1), いつも同じ台詞になってしまった (1), 沈黙が

			できてしまった (1), 文法がおかしくなった (1), 相手の言っていることが理解できない (1), 話を広げるのに苦労した (1)
—	疲れた	(3)	話題があまりない (1), 英語が出てこない (1), ずっと英語だったから (1)
—	あまり英語で話せなかった	(1)	英語が思いつかなかった (1)
—	困った	(1)	単語力が足りず言いたいことが言えなかった (1)
—	つまらなかった	(1)	言いたいことが英語にできずに詰まってしまった (1)

3.1.2 今後（第1回後）の改善点（表1.2）

定型文：「_____という点は改善すべきで，_____という改善方法が考えられる」

改善点		具体的方法
日本語が時々混ざった	(54)	辞書を使う (28), 単語力向上 (16), ジェスチャーで頑張る (4), 簡単な単語を使う (3), 準備が必要 (3), 授業中に話す努力をする (3), 頑張る (3), 文法を駆使する (2) 先生に聞く (2), とにかく英語を使う (2), プリントに日本語訳をのせる (1), 英語力をアップ (1), 分かりやすい文を作る (1), 勉強量を増やす (1), 相手に助けを求める (1), 独特の言い回しを学ぶ (1), ペアの人やる気が必要 (1), 意識が必要 (1)
日本語が多かった	(9)	
日本語を使いたくなる	(1)	
単語力不足	(28)	単語力を増やす (12), 辞書を使う (10), 単語の勉強をし直す (3), 授業で使った単語を使えるようにする (2), 文法より単語が必要 (1)
文法力不足	(15)	文法書を読み直す (5), 文法の勉強をやり直す (3), 辞書を使う (1), このような授業を増や

		す (1), 文を作る練習をする (1)
話題不足	(8)	日頃からいろんなものに目を向ける (2), どんなことでもいいから話す (1), テレビや雑誌を見る (1), 自分の興味を広げる (1), 質問をたくさん考える (1)
英語がうまく使えない	(9)	辞書で調べる (2), 単語を増やす (2), 会話でよく使う単語を覚える (1), コミュニケーションの方法を身につける (1), 授業中に語彙を増やす努力をする (1), 文法を覚える (1), 思い立ったら英語にしてみる (1), 英語に慣れる (1)
日常使えそうな単語や構文を学ぶ	(2)	授業中に頑張る (1), 英文を覚える (1)
単語ばかりで話してしまった	(2)	授業中に語彙を増やす (1), 文法力をつける (1)
時間が短かった	(2)	
全体的に英語力不足	(2)	語彙をふやす (1)
受け答えなどの形式的な表現を学ぶ	(1)	
人見知りをした	(1)	直す (1)
英語使用に慣れていない	(1)	ラジオを聴く (1), 授業中話すのを頑張る (1)
発音が悪い	(1)	CD を聞く (1)
繰り返しの活動だった	(1)	クラス全体の活動があってもよかった (1)
違う学科とも組み合わせる	(1)	
もう少し時間を短く	(1)	
話法をもっと覚える	(1)	本を読む (1)

3.2 第 2 回合同授業後アンケート結果

第 2 回合同授業後のアンケートは以下の 3 点について答えてもらった。

3.2.1 「合同授業は_____だから_____だと思った」

3.2.2 「第 1 回合同授業の_____という点は改善すべきで、_____という努力をした」

3.2.3 「_____という点は改善すべきで、_____という改善方法が考えられる」

3.2.1 第 2 回合同授業について (表 2.1)

定型文：「合同授業は_____だから_____だと思った」

	感 想	理 由
++	すごく楽しかった (2)	友達がたくさん増えた (1), 前よりよく英語で話せた (1)
+	前回より楽しかった (2)	会話がはずんだ (1), 2 回目で話しやすくなった (1)
+	楽しかった (84)	いろいろな人と話せた (35), 新しい友達ができ (14), いろいろな話ができ (11), けっこう英語で話せた (7), 前回より英会話ができ (6), 英語で良いコミュニケーションがとれた (5), 初めて話す人とも盛り上がった (2), 交流が深まりこれからの学校生活に役立つ (2), 話が続けると楽しかった (1), 分からない英語を一生懸命はなそうとして変な英語で話すのが楽しかった (1), 単語を無理やり言って会話が繋がられた (1), いろいろ考えながら会話ができた (1), 知っている友人とでも英語で話すと新鮮に感じた (1), ジェスチャーなどを入れて笑いをとれると分かった (1), 英語でジョークが言えた (1), 意外な共通点を見出せた (1), 英語の勉強になった (1), 前回と同じ人とやったので話しやすかった (1), お互いに努力できた (1), 新しい発見があった (1), 話題が趣味的な

			ことで盛りあがった (1), 先生にほめられた (1)
++	すごく面白かった	(1)	英語で話すことは楽しい (1)
+	面白かった	(13)	知らない人と英語で話せた (5), 英語で何とか伝えられた (1), いろいろな話題で盛り上がった (1), 会話がはずんだ (1), 相手のことをいろいろと知ることができた (1)
+	よかった	(1)	知らない人と話せた (1)
+	役に立った	(1)	新しい単語を覚えた (1)
+	もっと長い時間やりたい	(1)	みんな英語が話せるようになって会話が続くようになってきたので, 1人5分は短い (1)
+	普通	(1)	話したことのない人と話せたし, 人見知り解消! (1)
-	難しかった	(23)	言いたいことが英語にできなかった (9), 英語だけで話すのは大変だった (3), 話題が途切れることがあった (3), 文にならず単語になってしまった (2), 英語は難しい (2), うまく質問ができなかった (1), 伝わらないと焦る (1), 分からない単語につまった (1), 語彙が少なくてうまく伝えられなかった (1), 照れた (1)
-	大変だった	(2)	会話が続かない時疲れた (1), 英語は難しい (1)
-	疲れた	(1)	言いたいことが英語にならなくて精神的に疲れた (1)
-	もどかしさを感じた	(1)	言いたいことが英語にできなくて単語ばかりになった (1)
-	わからなかった	(1)	分からない単語が多かった (1)
-	気まずかった	(1)	1つの話題が長く続かなかった (1)
-	すごく焦った	(1)	

—	英語無理！ (1)	言いたいことが英語にできずに詰まってしまった (1)
---	-----------	----------------------------

3.2.2 第1回合同授業で感じた改善点に対して努力した点 (表2.2)

定型文：「第1回合同授業の _____ という点は改善すべきで， _____ という努力をした」

第1回合同授業で感じた改善点	どんな努力をしたか
前回日本語が混ざった (61) 点に対して	辞書を使った (13)，ジェスチャーを使った (12)，一生懸命話そうと努力した (11)，知っている単語を最大限駆使した (8)，単語力向上の努力をした (6)，話しながら次の話題を考えた (4)，別の英単語に言い換えた (3)，無理やり英語で話した (2)，分からないところを先生に聞いた (2)，伝えたいことを考えながら話した (2)，単語を使えるだけ使った (2)，なるべく簡単な英語でがんばった (2)，日本語を使わないように頭で考えた (1)，友達に聞いた (1)，ノリでカバーした (1)，すべて英語で話せた (1)，前より単語が出てきた (1)，単語と単語でつないだ (1)，プリントの質問は回答を用意した (1)，日本語を使わないように気をつけた (1)，諦めず考え伝える努力をした (1)，とりあえず頭をひねりにひねった (1)，文法が少し分からなくても単語でどうにか乗り切った (1)，日本語と英語がうまく一致しなかった (1)，いろんな表現を頭に浮かべてやった (1)，授業中に習った単語を使った (1)，多少慣れた (1)
単語が出てこなかった (10) 点に対して	他の単語で表現した (4)，ジェスチャーで話した (3)，辞書で補った (2)，気持ちで伝えた (1)，思い出そうと努力した (1)，単語でつなげた (1)，表情やボディーランゲージを駆使した (1)，日本語が混ざらないようにした (1)
話題に困った点について (4)	積極的に自分から話題を出すようにした (1)，

て	プリントの内容だけでなくいろいろな話題で話した (1), 短い文で区切って話した (1), 次の話題を考えた (1)
会話が続かなかった点 (3) について	前よりいろいろな話題について話すようにして沈黙を減らした (1), とにかく単語をつなげた (1), 笑顔をたくさん作った (1)
うまく発音ができなかった点 (1) について	洋楽 CD を聴いて発音をよくした (1), 事前に少し準備をした (1), 分からない時に辞書で補った (1), 前の授業で準備しておいた方が楽しく話せる (1)

3.2.3 今後 (第2回後) の改善点 (表 2.3)

定型文: 「 _____ という点は改善すべきで, _____ という改善方法が考えられる」

改善点	具体的方法
単語力を向上 (40)	単語の勉強をする (11), 授業中に語彙をふやす (6), 授業をしっかり受ける (4), 日常に使う単語を知る (4), 辞書で調べる (2), 授業で出てくるフレーズをうまく生かす (1), 通学中に辞書を開く (1), 洋楽を聴く (1), 単語帳を見て勉強する (1), 単語を思い出してみる (1), 日常的に意識する (1), 表現方法を学ぶ (1), よく使う単語をピックアップする (1), 英語を読む量を増やす (1), 自己紹介文は言えるようにしておく (1)
文法力の向上 (24)	もっと勉強する (7), 文法の本を読み直す (6), 授業で頑張る (2), 会話文を覚える (1), チャートなどで文法を覚える (1), 英語に親しむ (1), 英語の本を読む (1)
いろいろな話題について話したい (13)	話題を広げる (3), 単語を増やす (2), 前日にもっと作戦をたてる (1), 話しながら次の話題を考える (1), もっと深い質問を考えてみる

日本語が時々混ざった (13)	(1), ニュースを見る (1), 辞書を持ってくる (1) 辞書を使う (5), 単語力向上 (3), 英語表現を増やす (1), 英語に慣れる (1), 授業にもっと集中 (1), ジェスチャーを使う (1), 勉強する (1), もっとがんばる (1), 日本語を使わないように努力する (1)
話が盛り上がりすぎて (1) 日本語が出る	落ち着く (1)

3.3 第 3 回合同授業後アンケート結果

第 3 回合同授業後のアンケートは以下の 3 点について答えてもらった。

3.3.1 「合同授業は _____ だから _____ だと思った」

3.3.2 「第 1・2 回合同授業の _____ という点は改善すべきで、
_____ という努力をした」

3.3.3 「合同授業を受ける前は _____ と思っていたが、3 回の合同
授業を受けた後は _____ と思う」

3.3.4 今後の英語学習について (自由記述)

3.3.1 合同授業について (表 3.1)

定型文：「合同授業は _____ だから _____ だと思った」

	感 想	理 由
++	すごく楽しかった (1)	いろいろ話せて仲良くなれた(1)
+	楽しかった (76)	新しい友達ができた (29), いろいろな人と話せた (18), いろいろな話ができた (9), けっこう英語で話せた (8), 前回より英会話ができた (7), 会話がはずんだ (5), すごく仲良くなれた (3), 前回話したことのある人ともっと詳しく話せた (3), 楽しく話せた (2), 少しだけ英語が使えるようになった (1), 英語をほめられた (1), ク

			<p>リスマスの予定などを面白く話し合えた (1), 英語で書くのと話すのとでは全然違うと実感した (1), ジェスチャーを使って話せて楽しかった (1), 5 分間しっかりしゃべれた (1), 北陸の人がいてとても嬉しかった (1)</p>
+	面白かった	(15)	<p>新しい友達ができ (4), いろいろと会話ができた (5), 英語は楽しい (1), 自分の知らなかった競技について知った (1), 英語でジョークが言えた (1)</p>
+	役に立った	(2)	<p>分からない単語がわかったから (1)</p>
+	頑張った	(2)	<p>細かいところまで話そうとした (1)</p>
+	以前より盛り上がった	(1)	<p>親密な内容の話ができた (1)</p>
+	英語で話せた	(1)	<p>英語の楽しさがわかる (1)</p>
+	ためになった	(1)	<p>知らない人と英語でコミュニケーションがとれた (1)</p>
-	難しかった	(15)	<p>言いたいことが英語にできなかった (4), 文法がわからない (1), 理解できない (1), 女子とは会話がはずむが男子とはなかなか話せない (1), 会話の切り替えがうまくできなかった (1), 英語は難しい (1), 頭の中の会話がどんどん抜けていっている (1)</p>
-	疲れた	(2)	<p>沈黙があった (1), 気を遣った (1), 会話が止まってしまうことがあった (1)</p>
-	つまらなかった	(1)	<p>3 回ともやる内容が同じだった</p>

3.3.2 第1回・第2回合同授業で感じた改善点に対して努力した点 (表 3.2)

定型文:「第1・2回合同授業の _____ という点は改善すべきで,
_____ という努力をした」

第1・2回合同授業で感じた改善点	どんな努力をしたか
日本語使用 (43)	一生懸命英語を話そうとした (9), ジェスチャーを使った (8), 辞書を使った (5), 単語でもいいから英語で話すようにした (4), 単語を覚える努力をした (4), 分からない時は次の話題を展開した (4), 他の表現を考えた (2), 紙に書いて説明した (2), 日本語を話さないようにした (1), 耐えた (1), できるだけ簡単な単語を使うようにした (1), 先生に聞いた (1), 合間に well や I see を使った (1), 今回もときどき日本語が混ざった (1)
単語が出てこなかった (12)	単語力を高める努力をした (5), 辞書を使った (2), 授業中の単語プリントをがんばった (1), めちゃくちゃ考えた (1), 頑張って伝えた (1), もっと授業中に覚える (1), 気合を入れた (1), 単語でつないだ (1), 絵を使った (1), 相手に聞きなおした (1), ジェスチャーで補った (1)
英語でうまく表現できなかった (12)	簡単な文や単語を使った (4), ジェスチャーを使った (3), 辞書を使った (2), 他の言い方を考えた (1), 話して覚えた (1), 先生に聞いて教えてもらった (1)
会話が続かなかった (10)	次の話題を考えながら話した (2), 何とか話をつなげた (2), 自己紹介だけでも英語で話す (1), プリントの質問を使った (1), 相手に聞いた (1), 話す前に考えておいた (1), 何とかカバーした (1)
会話のバリエーションが少ない (3)	ジェスチャーを使った (1), 違う質問をしようと努力した (1), 授業で使ったものを活用した (1)
分からないところがあった (1)	ジェスチャーを使った (1)
文法を使ってちゃんとし (1)	辞書の例文を参考にした (1)

た会話ができなかった	
文構造が確実におかしかった (1)	ゆっくりだが相手にわかるように話す努力をした (1)
照れて話そうとしなかった (1)	話そうと努力した (1)
相手の反応がビミョーだった (1)	恋愛ネタで興味をひきつけた (1)
やっぱり英語は完璧に話せない (1)	少しでも英語を話そうと頑張った (4), ジェスチャーを使った (1), 辞書と絵を使って伝えようとした (1), 辞書を使った (1), 分かる単語を使って表現した (1)

3.3.3 合同授業を受ける前と受けた後の気持ちの変化 (表 3.3)

定型文: 「合同授業を受ける前は _____ と思っていたが, 3 回の合同授業を受けた後は _____ と思う」

合同授業を受ける前		3 回の合同授業を受けた後	
+	頑張ろうと思った (1)	+	意外とコミュニケーションがとれた (33), もっと英語を話せるようになりたい (4), どんどん話がはずんで面白かった (2), 機会があれば使いたい (2), 単語やジェスチャーで伝わった (3), 話そうとすれば英語で話せることがわかった (2), バイト先の外人と話せた (1), 授業中だけでも学んだ英語を実践できた (1), 力がついた (1), もっと英語の発言や聞き取りができるようになりたい (1), 英語でコミュニケーションをとることは楽しかったから覚えよう
-	英語が話せると思わなかった (不安だった) (45), 英会話をするのは難しい (6), 英語をもっと話せると思っていた (4), 英語で話すのはいやだった (2), 英語が話せないので話す機会が少なかった (2), やる気がなかった (2), あまり意味がないと思っていた (1), 話が続かないと思った (1), 話す話題がないと思っていた (1), 英語で話そうと思わなかった (1), 英語が単語だ		

	<p>けになるのではと不安だった (1), 正しい文じゃないと伝わらない (1), 日本人だから英語が話せなくてもいい (1), 話すことが恥ずかしかった (1), いやだった (1), 疲れると思った (1), 英語を特別なものとして考えすぎていた (1), AET などの「理解しようとしてくれる外国人」としか話せないと思った (1)</p> <p>0 気持ちで伝わるだろう (1)</p>	<p>と思った (1), 接続詞などを用いて文がつなげた (1), 英会話は伝える気持ちが大切 (1), 「話そう」と思うことが一番大切 (1), 不安はなくなった (1), 英会話に慣れた (1), スマイルを絶やさないことが大切 (1), とてもよくがんばった (1), かえって英語の方が話せた (1), 英会話は難しいがジェスチャーでも通じるのですごく楽しかった (1), 授業中にたくさんメモをとっておくとそれが使えたときがあった (1), いろいろな事がわかってとても面白かった (1), 英語を使えば友達ができた (1), もっと積極的になるべきだと思った (1), 簡単な言葉を使って伝えた (1), 英語表現の楽しさがわかった (1), どうか使えるようになるかもしれないと思った (1), プリントの表現をヒントにして話をふくらませることができた (1), 英語でできるだけ頑張ろうと思った (1), 自分の努力次第で英語をうまく使いこなせる (1), 話していくうちに楽しくなった (1), 英語は苦手だが会話ならなんとかなる (1), 同じような実力の人とでも話せる (1), 英語を話すことに抵抗がなくなった (1), 楽しくなった (1), とても楽しかった (1), よくがんばった (1), 外国に行って英語を使いたいと一瞬思った (1)</p> <p>— 英会話は難しい (7), 自分のコミュニケーション力のなさを感じた (2), やっぱりあまり使えていない (1),</p>
--	---	--

		自分は英会話に向いていない (1), 気持ちだけじゃダメだ (1)
0		会話は話さないと上達しない (1)

3.3.4 今後の英語学習について (自由記述)

日常会話を勉強したい (15), TOEIC を受ける (10), 単語力向上 (7), 音楽を聞いたりして英語にふれたい (6), 英語 (英会話) がもっとできるようになりたい (6), 映画を観る (5), 2 年生からも英語の授業をとりたい (4), もっと英語を使っていきたい (4), 実際に英語のネイティブとコミュニケーションをしたい (3), 使える英語を身につけたい (3), 海外に行きたいので英語を勉強していきたい (3), 職業 (将来) に役立つような英語を勉強したい (3), 英語を使う機会があれば積極的にしゃべってほしいと思う (2), 発音, リスニング, 話す力をつけたい (2), 授業を受けたりテレビなどで勉強してみたい (2), 日常的に英語にふれていきたい (2), 時々会話する (2), 日常よく使われている英単語を使っていきたい (1), 外国人に道を聞かれたら答えられる程度になりたい (1), どこかで話す機会をみつけない (1), いざという時のために英語力をたくわえたい (1), 本を読みたい (1), 実用的な学習が大事だと思う (1), 表現が増やせるようにがんばる (1), 文法, 小説を読む, 音楽を聞く (1), リスニング能力をつけたい (1), もう一度文法からやり直したい (1), 感情を英語で表せるようになりたい (1), 英語の楽しさをつかめるようになりたい (1), 自分のペースでちょっとずつやっていきたい (1), 使う機会があるかもしれないので最低限維持していきたい (1), 復習が大切だと思った (1), 英語は好きなのでこれからも自分でいろいろ学んでいきたい (1), 楽しくコミュニケーションをとりながら学びたい (1), がんばっていききたい (1), コミュニケーションは大切 (1), 話さないと覚えなから分らない (1), 必要に応じて勉強できたらいいと思う (1), 英会話教室に行く (1), これから考えたい (1), もういいです (1)

3.4 使用した CS についての分析結果 (表 4)

C S	第 1 回	第 2 回	第 3 回	合計
a. 単語を知らない場合, 簡単な言葉を使ってそれを説明してみる。	3	9	3	15
あるいは, その場で辞書で調べて使ってみる。	40	16	10	66

b. 何かを聞かれたら、質問の答えだけではなくさらに情報を付け加える。	0	0	0	0
c. 相手の答えに対してさらに質問を付け加える。	0	0	0	0
d. Fillers を使う。	0	0	1	1
e. 英語で上手く表現できない時に、身振り・手振り・絵を描くことなどをする。	4	16	15	35
* 他の援助を求める。(教師 or 対話者)	3	0	4	7
* 話題について熟考する。	8	8	0	16

3.5 動機付け (Motivation) についての結果

3.5.1 合同授業についての感想 (表 5.1)

	テキストマイニングで分析した文の数	前向きな捉え方 (+)	中立的な捉え方 (0)	否定的な捉え方 (-)
第 1 回授業	172	124 (≒72%)	3 (≒2%)	45 (≒26%)
第 2 回授業	137	106 (≒77%)		31 (≒23%)
第 3 回授業	117	99 (≒85%)		18 (≒15%)

3.5.2 合同授業を受ける前と受けた後の気持ちの変化についての分析

(表 5.2)

	前向きな捉え方 (+)	否定的な捉え方 (-)
合同授業を受ける前	1	73
3 回の合同授業を受けた後	34	12

(第 3 回合同授業参加者 98 人中)

4. 考察

CS 指導を通して CS が英語コミュニケーションに有効であることを経験させることによって、自分の英語力に対する自信をつけ、英語学習への動機付けを高めることを目的とした。まず、3 回のそれぞれの合同授業の後に行なったアンケートの定型自由文の分析から始める。

第 1 回合同授業

新入生になったばかりの 5 月 6 日に行なったため、まだ互いに学内の友人は少なく、学生は緊張した面持ちで第 1 回合同授業に参加した。定型自由文の形のアンケートをテキストマイニングの基礎的な手法で分析したところ、大半の学生 (約 72%) が、「楽しかった」とか「面白かった」と答えた (表 1.1, 表 5.1)。英語コミュニケーションを手段として、大学での新しい友達を作る楽しさを味わった学生も多くいた。一方、残りの学生は「難しかった」と捉えており、英語でコミュニケーションをとるもどかしさや難しさを実感したようであった。

とりわけ目に付いた第一の問題点は、多くの学生が「今後の改善点」(表 1.2) で書いているように、英語のコミュニケーションにつまずいた時に日本語を使用してしまうことであった。参加者 98 人の中で、「日本語が時々混ざった」という回答が 64 もあった。そして、多くの学生が、問題点として単語力の不足を実感していることが記述から読み取れる。

第 1 回合同授業後の学生からの反応としては、「またやりたい」との意見が非常に多かったため (アンケート最後の自由記述の項目から)、秋学期にあと 2 回実施することを決定した。分析結果から、授業の改善のために、1) 授業中に語彙の補強のための指導を強化すること、2) 次回の合同授業のときには、「日本語を使わなかった」ことをパートナーに認められたらサインをもらうこと、にした。

第 2 回合同授業

第 2 回は秋学期の半ば (11 月 1 日) に行なった。普段とは異なる授業

形態を楽しみにする学生も多かった。授業についての感想では、回答の約77%が合同授業を肯定的に受け止め（表2.1, 表5.1）、第1回と比べて5%増加した分、否定的な感想は減少した。アンケートの自由記述文からは、1回目に比べてさらに詳しい描写で自己分析を試みていることが読み取れた。

第2回で大きく改善されたのは、最も大きな問題点であった日本語使用の点である。第1回で日本語使用を問題点とした回答が64であったのが、第2回では13に減少した。パートナーからサインをもらうという行為が励みになったようであった。日本語使用については、大半の学生がさまざまなCSを駆使したり、何らかの努力をしたと答えている（表2.2）。実際に、指導者が机間巡視をしてもほとんど日本語は耳に入らず、この点は明らかに改善されていた。

日本語使用の問題が改善されたため、アンケートの「今後の改善点」は第1回から大きく変化し、意見の多かった順に「単語力の向上」「文法力の向上」「話題の拡張」となり、英語によるコミュニケーション能力の向上に焦点が移った（表2.3）。

第3回合同授業

第3回は12月13日、1年生の秋学期の授業がほぼ終わりに近い時期に行なった。普段はそれぞれ違う教室で授業を受けてはいるものの、3回目はお互いに顔見知りも増えたようで、1回目に比べるとかなりくつろいだ雰囲気で行なうことができた。第3回では、合同授業を肯定的に受け止めたのは全体の意見の85%となり、3回行なううちに毎回肯定的な意見が増加することが確認できた（表3.1, 表5.1）。また、3回目になって、プリントに載せた話題に頼ることなく自分たちで話題を考えて会話を続けている様子が観察された。

第1回と第2回の2回分の問題点としては、「日本語使用」「単語力不足」「英語力不足」「会話が続かなかった」などが多かった。自由記述文の中には、1, 2回目と比べて、「一生懸命」「努力をした」「できるだけ」「めちゃくちゃ」「何とか」「少しでも」というような表現が目立ち、英語でコミュ

ニケーションをとることに対して前向きに取り組んだ様子が読み取れた (表 3.2)。

最後の回ということで、アンケートに「合同授業を受ける前と受けた後の気持ちの変化」について記述させた。合同授業を受ける前の気持ちは、記入したほとんど全員が、不安や困難さを理由に否定的な気持ちを持ち、英語コミュニケーションに対する心理的なバリアが非常に高いことが窺えた。しかし、3回の合同授業を受けた後の気持ちは、否定的な回答が73から12に減少し、肯定的な回答が1から34に増加し (表 3.3, 表 5.2), 英語コミュニケーションに対する心理的なバリアの大幅な低下が見られた。

今後の英語学習については、ほとんどの学生が「前向きに取り組みたい」という積極的な姿勢から具体的な勉強方法を述べており (表 3.4), 体育学部的一般教養科目であることを考えても、3回の合同授業が動機付けを高めるのに貢献したと言えるであろう。

また、今後の英語学習については、異なる教師が教える2つのクラスの学生の意見を比較することによって、教師が教える英語学習方法が学生に影響を与えていることがわかった。井上のクラスでは教師自身が初めて受験した TOEIC テストについての経験談や勉強法を話していたため、担当クラスには、今後の英語学習方法として「TOEIC を受ける」と答えた学生が数人いた。園田のクラスでは授業で時々英語の歌を扱っていたため、担当クラスには、今後は「洋楽を通じて英語をもっと学びたい」と答えた学生が数人いた。教師が学生に与える影響を考えると、英語教育において教師がさまざまな学習方法を学生に提示することが重要だと思われる。

使用した CS についての分析結果

教えた5つの CS についての記述の中では、「a. 言い換え・辞書使用」が一番多いが、3回の授業を比べると、回を重ねるにしたがって辞書を使わなくなる様子が見られる (表 4)。次に多いのは「e. 身振り・手振り・絵による描写」であるが、1回目より、2回・3回目の授業の方が使用頻度が高かった。「c. Fillers を使う」は1名だけだった。その他の CS として、「教師や対話者などの他人に援助を求める方略」と、「話題についてよ

く考える」という方略を使った学生もいた。

「b. 情報の付け加え」と「c. 質問の付け加え」については、授業中に頻繁に指導した点であり、5 分間相手と英語でコミュニケーションを続けるためにはこの 2 点を実践していると思われるのだが、一人も CS として記述をしなかった。その方略を使用していることを自分で認識していないからだと思われるが、これは第一言語の日本語使用においてすでに習得しているからなのか、今後の研究が必要だと思われる。

3 回の合同授業後に定型自由文を書かせるアンケートを行ない、それをテキストマイニングの基礎的手法で分析することにより、参加学生は CS を使う経験を通して英語コミュニケーションに自信を持つことができるようになり、英語学習への動機付けが高まることが明らかになった。また、テキストマイニングの手法を使うことによって第 1 回合同授業の問題点（主に日本語使用）が明らかになったため、それに対するフィードバックを第 2 回、3 回授業に生かすことができた。

しかし一方、CS を指導することが直接英語力向上につながるのかという点は、今回の分析結果から判断することはできなかった。たとえば、回を重ねるごとに CS の 1 つである辞書使用が減ったことは、上手に別の単語や表現に言い換えているのかもしれないし、ジェスチャー使用が増えていることと関連付けて考えると、言葉ではなくジェスチャーで代用してしまっているだけかもしれない。これらの点は定型自由文の形のアンケートで明らかにすることはできない。さらに詳細に CS に焦点を当てたアンケートを実施するか、もっと質的な分析が必要である。

今回の研究結果は、合同授業という機会が、日本人英語学習者が日本人を相手に英語コミュニケーション能力を高める練習をする際のひとつの方法として有効であることを示している。将来ますますグローバル化がすすみ、日本人が英語を使ってコミュニケーションをとる必要性は高まるであろう。中京大学で合同授業を経験した学生たちがいつか英語を使うチャンスに恵まれたときに、「あのときけっこう英語が通じて、楽しかった」と思い出して、勇気を持って前向きにコミュニケーションに励むことを願っ

ている。

引用文献

- 林 俊克. 2002. 『Excel で学ぶテキストマイニング入門』. オーム社. 2. 111.
- Hearst, M. 1999. Untangling Text Data Mining. *Association of Computational Linguistics*. Retrieved July 1, 2007, from <http://www.ischool.berkeley.edu/~hearst>
- JACET SLA 研究会 2005. 『文献からみる第二言語習得研究』. 開拓社. 151.
- ジョンソン K.・ジョンソン H. (編) 岡 秀夫 (監訳). 1999. 『外国語教育学大辞典』大修館書店. 80.
- 小池生夫 (編). 2003. 『応用言語学事典』研究社. 49-50.
- 小池生夫 (編). 2004. 『第二言語習得研究の現在 ― これからの外国語教育への視点 ― 』. 大修館書店. 168.

(受理日 平成 19 年 7 月 11 日)